

目配り・気配り・心配り⑤

今月の学校紹介は、有屋小学校です。

一、はじめに

今年度は、新入生五名を迎えて三十八名の児童と十名の教職員でスタートしました。学校経営の基本方針は、「子どもたち一人一人の能力を十分に引き出し、知力・精神力・体力を鍛え高め、変化の時代を生き抜くことができるたくましい子どもを、地域と一体となって育成すること」です。

二、主な取り組み

① 確かな学力をつける。



「対話」を通し、自分の学びを高めることができ、子どもの育成を目指しています。そのため、授業改善、学力の

向上に直結する校内研究に努めています。特に今年度は「授業改善プロジェクト校」の指定を受け、教育事務所、町教育委員会の先生方と一緒に授業づくりを進めています。

また、学力の定着を図るため全校スキル学習やチャレンジテスト、家庭学習の充実に努めています。全校スキル学習では、校長をはじめ担任外の職員も指導に当たり、朝学習時に算数の復習に取り組んでいます。家庭学習の充実のために、子どもたちへの家庭学習の仕方の指導ばかりではなく、「家庭学習の手引き」をもとに、保護者との連携を重視しています。

② 豊かな感性を育てる

体験的な学習を重視し、有屋の自然、文化、歴史などについて学ぶことで自分たちの地域を

誇りに思う子どもの育成を目指しています。



具体的には、「有屋少年番楽」活動の継承・発展を図っています。有屋少年番楽の伝

承活動では、稲沢番楽保存会、柳原番楽などの地域団体と連携し、時間設定を工夫しながら全校体制で進めています。

③ たくましい心と体を育成する。

適切な生活習慣を身につけ、体を鍛え、健康や安全に配慮し、最後までねばり強くやり通す気迫ある子どもの育成を目指しています。夏は水泳指導に力を入れました。八月四日（中間登校日）には水泳記録会が開催され、記録更新が多数見られました。七月始めから十回の水泳教室に意欲的に取り組んだ成果だと思えます。秋・冬は、マラソン記録会、縄跳び検定、クロスカントリースキー大会があります。

いずれもチャレンジ月間を設けたり、スポーツ少年団と連携したりして継続的な取り組みになるようにしています。そのためにも日頃から、「規則正しい生活リズム」と「最後まであきらめない」ことの二つを合言葉にしています。

三、おわりに

七月中旬、玄関の正面に看板を設置しました。

あいさついっぱい！
笑顔いっぱい！
きらり輝け 竜馬っ子

この看板は、以前グラウンド南側に設置していたのですが、柱の老朽化のためやむなく撤去したものをリニューアルしたものです。

以上、主な取り組みをご紹介しました。今後とも「有屋の宝物」である子どもたちの健全育成のため、家庭、地域と連携して学校経営を進めてまいります。

(有屋小学校 教頭 佐藤 秀一)